

～法人マーケット開拓に役立つ～ **ガソリンスタンド業** **2**

業種別リスクマネジメント対処法

株式会社アルマックインシュアランスパートナーズ

<http://www.almac-ips.co.jp>

代表取締役 松本 一成

◆株式会社アルマックインシュアランスパートナーズ

平成20年7月に営業開始。法人マーケットに対してリスクマネジメントを切り口とした提案を行い、業容の拡大をしている。リスクマネジメントのコンサルティング及び教育・研修事業を得意とし、理念を共有する代理店と積極的にノウハウやシステム及びブランド共有を進めており、昨年1年間で10代理店が支店参画し収入保険料は1年間で損保ベースで10億円の増加を達成。

〔代表執筆者：長田浩嗣氏（同社姫路支店 支店長）〕

ガソリンスタンドのリスクマネジメント

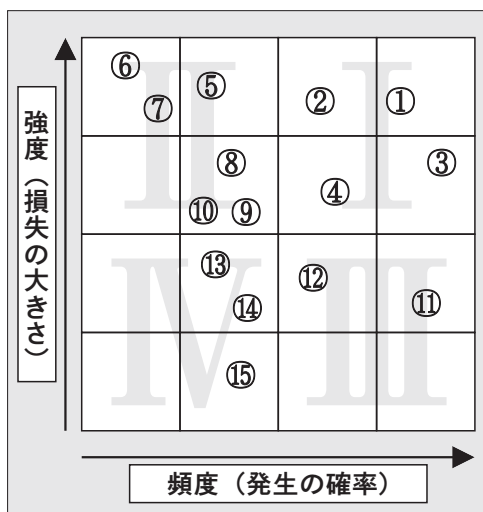
◇ガソリンスタンド業の特徴

ガソリンスタンドは車社会で生活する私達に必要な不可欠ですが、近年廃墟のように放置されているガソリンスタンドがあちこちで見られるようになりました。

昨年の暫定税率の廃止や復活などガソリンをめぐる混乱が発生し、ガソリン、軽油や灯油の価格は原油高騰で大幅な値上がりとなり、平成20年7月にはレギュラーガソリンが180円台まで上昇したことを受けて、消費者の節約意識が強まりスタンド経営は厳しさを増しました。また、高齢化や人口減少、車離れ、電気熱源の暖房への移行、電気自動車の出現と普及、ショッピングセンターやホームセンターでの灯油販売により今後も需要の減少が予想される中、ガソリンスタンドの廃業やセルフ式ガソリンスタンドへの移行が増加しています。スタンド数の減少には歯止めがかからず、平成16年に4万3038か所あったスタンドは平成19年には3万8909か所と9.6%減少し、従業員数もセルフ化の影響もあり、25万2347人で、16年調査の28万8660人に比べ、12.6%減少しています。

◇リスクマップ例

- 【I】 ①電気自動車等の普及
- ②競合店の出店
- ③セルフ式の普及
- ④燃料価格の変動
- 【II】 ⑤火災・爆発事故
- ⑥天災（地震等）
- ⑦施設管理責任（環境汚染・爆発等）
- ⑧自動車事故
- ⑨設備の破損（車の飛び込み等）
- ⑩労災事故
- 【III】 ⑪仕入ミス
- ⑫車預かり時のトラブル
- 【IV】 ⑬顧客情報漏えい
- ⑭業務上のミス（オイル交換・誤入等）
- ⑮洗車時のトラブル



◇ガソリンスタンド業の特徴的リスク

ガソリンスタンドが抱える重大リスクとしては、まず①電気自動車の普及であり、ガソリン、軽油の需要減少にダイレクトにつながります。また、立地の条件が大きく売上やコストに影響するため、競争激化の中で②競合店の出店により売上が減少する可能性も否定出来ません。近

年においては、④燃料価格の変動（高騰）による需要減少の中で、市場では価格競争に有利な③セルフ式スタンドの普及が急速に進んでおり、この流れは今後も進むと考えられます。これらの環境変化は大きな業態転換を迫るものであり、その対応次第で存続に大きな影響を与えると考えられます。また、突発的な重大リスクとして考えられるのは、⑤火災・爆発事故、⑥地震等の天災、⑦施設管理責任（環境汚染・爆発）等がありますが、ガソリンという引火性の強い物質を扱うため、一度発生すると非常に大きな事故につながります。また、自動車が多く関係する業種ということもあり、⑧自動車事故や⑨設備の破損、⑩労災事故等のリスクも考えられます。特に燃料を輸送している業者については、事故発生時に大きな損害を発生させる可能性があります。その他、特徴的なリスクとしては、⑪仕入ミスがあります。燃料自体に差別化要素がなく、どこで買っても同じ品質である以上、料金での差別化が非常に重要であり、利益率を高めていくためには安く仕入れて高く売ることが必要です。そのため、先物市場や業者間の販売市場でいかに安く仕入れるかが大きく経営に影響を与えます。

◇ガソリンスタンド業のリスク対策

大きな環境変化にいかに対応していくかが、生き残りの重要な課題になってきます。

電気自動車の普及が進めば電気自動車ユーザーの取り込みを考えなくてはならず、充電スタンドの設置はもちろん、充電待ちにくつろげる施設の充実やサービスが不可欠になってくると思われますし、価格の安いセルフ式ガソリンスタンド等の競合店が増加する中で、セルフ化への業態転換を検討する必要も出てくるでしょう。また、低価格化や需要減少に対応して、単なるガソリンの給油だけでなく、様々なサービスを付加したスタンド経営を目指す例が増えていきます。車整備の国家資格を持つ従業員が修理等の専門的な相談に応じたり、洗車サービス等で手洗いの丁寧さをアピールしたり、コーヒー店やコンビニを併設してサービス提供するなど、価格以外のプラスアルファを特徴とし、サービス向上と別収入の確保を図っています。今後の生き残りには、付随サービスによる他店との差別化とガソリン以外の収入源の確保、合理化や業態転換による経費削減と低価格の実現、サービス品質やお客様への接客態度の向上等、固定客を囲い込むための対策が必要であり、それらを実現するためには長期的な事業計画と資金計画が必要になって来ると考えられます。

◇ガソリンスタンド業における保険活用

保険でカバー出来ない重要リスクが多いため、財務的にも保有対策が非常に重要になってきますが、強度が大きく、頻度の低いリスクに対しては保険活用が効果的です。火災・爆発・地震・台風等の財物リスクについては火災保険や地震保険などを活用し、自動車事故には自動車保険、労災事故については上乗せ労災や使用者賠償責任保険が有効です。

その他のガソリンスタンド特有のリスクについては以下のような保険で対応可能です。

（仕事の結果リスク）

燃料の誤入、オイルドレインの閉め忘れ・閉不十分等、仕事結果に起因して他人を死傷させたり、他人の財物に損害を与えてしまい、法律上の賠償責任を負わされた場合には、生産物賠償責任保険（PL保険）で対処できます。

（管理中のリスク）

洗車に預かった車を移動中にキズつけたり、保管中に盗難にあったりして持ち主に対して負う法律上の賠償責任は自動車管理者賠償責任保険で対処できます。

（施設内で起こるリスク）

誘導ミスによる車同士の事故、給油ノズルで車をキズつけた、構内ですべて来客がケガをした等、施設の安全性・不備、業務遂行中の事故により、他人を死傷させたり、他人の財物に損害を与えてしまった場合の法律上の賠償責任を負わされた場合に施設賠償責任保険で対処できます。

他にも給油計量器、洗車機などの損害は動産総合保険、窓ガラスやドアガラスの損害にはガラス保険、現金・商品の盗難には盗難保険など、ガソリンスタンドのリスクを総合的にカバー出来るガソリンスタンド総合保険と称する保険もあります。